

産学官連携による若手研究イノベータの養成

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：名古屋工業大学（総括責任者：高橋 実）

プロジェクトの概要

産学官連携に数多くの実績を持つ名古屋工業大学に、先導的融合領域の研究を推進する若手研究者育成を目的とした「若手研究イノベータ養成センター」を設立する。研究領域ごとに任期制特任教員として若手研究者を雇用し、テニユアトラックへ導入する。特任教員は、教員及び大学院生を中心とした支援体制の下で主体的に研究グループを構成して自立的かつ継続的に研究を実施し、産学官連携プロジェクトとのコンカレントな研究交流により、技術イノベーションの創出と新研究領域の開拓を目指す。任期終了後は、学内に用意したテニユアポストへの採用のほか、産学官並びに国際連携を活用して産業界並びに国内外の諸機関に送り出すなど、多様なキャリアパスを実現する。

(1) 評価結果

総合評価	国際公募・選考・業績評価	人事養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人事養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	今後の進め方における取組
A	b	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

先導的融合領域の研究を推進する若手研究者育成を目的とした「若手研究イノベータ養成センター」を設立し、産学官連携プロジェクトとの相互補完的な研究交流などによって、技術イノベーションの創出と新研究領域の開拓を目指すという特徴ある取組は評価できる。優秀な人材の任用にも成功し、研究と教育のバランスにも配慮した育成を行っている。本プロジェクトの特徴である産官学連携の明確化を踏まえた今後の積極的な施策の展開とその実施による成果を期待する。

- ・ **国際公募・選考・業績評価**：公平で透明性の高い公募審査を行っていることは評価できる。外国籍研究者の任用に至らなかったため、PDCA サイクルを活用して今後の自主的取組の中で外国籍研究者の任用に向けた改善が必要である。また、産官学連携が活きる審査や評価のシステムの構築も必要である。
- ・ **制度設計に基づく実施内容・実績**：産官学連携を目指した明確な目標の設定がなされ、共同研究の支援が実を結び、また、育成環境も十分に整備されていることが評価できる。テニユアトラック若手研究者（以下、「TT 若手」という）の評価システムは構築されているが、TT 若手が国際的に活躍する仕組みの構築と展開にも期待する。
- ・ **制度設計に対するマネジメント**：既に自主経費による TT 若手の任用も始まっており、テニユアトラック制（以下、「TT 制」という）の全学展開への努力は評価できる。現状の採用システムとの一元化や資金計画等を明確にし、新たな人事システムの定着に総括責任者の更なるリーダーシップ発揮を期待する。
- ・ **今後の進め方における取組**：「採用・昇任時中心の人事」から「優秀な人材を採用し育てる人事」への転換を基本に置き、2名／年度の任用を継続する計画と資金計画も明確にしている点が評価できる。今後は TT 制の全学的展開と、外部資金の獲得を柱とする計画の実現への努力を期待する。